



鋪道に關する切望

大口喜六

自分は道路に關して一つの智識をも持たぬ。只實際問題として切實に感じて居るまゝを、無遠慮に申述べて見たいと思ふ。

自分は割合に多く内國を旅行する。さうして、地方へ行くと、近距離の處は、鐵道よりも寧ろ自動車を多く應用する。これは結局時間との關係である。何時も時間都合がよく、而も停車

場が手近な處にあるならば、必ずしも自動車を要せずして鐵道によるのがよいのであるが、それがさう行かぬ場合が多いので、寧ろ自動車によりて目的を達するのを利便とするのである。さう云ふ關係から、自分は常に地方道路の惠澤を受けることが少くない、其經驗によると、近來に於ける地方道路の發達は實に著しいものがある。さ

うして、かかる處へまでと思はるる處まで、自動車は通じ得るのである。十數年前、嘗て道路會議に於て、自動車の將來に於ける發達に就て、いろ／＼論議されたものであるが、實は當時に於ける想像の大なりし以上に、事實は驚くべき發達をなして居る。さうして此事實は、爾來繼續さるるものと思ふが、又たさうなくてはならぬものだと考へる。

特に貨物自動車の發達に至りては、自分の想像以上である。一昨年であつたと思ふが、自分は郷里から藏書を東京へ取り寄せようとしたが、其間約七十五里、貨物自動車一輛に積み切れるものなれば、鐵道によるよりも、寧ろそれによるのを便利としたのである。

如何となれば、自動車では、何等積替の必要なく、郷里の宅前から東京の宅前に直ちに横付けになるからである。

従つて日数は甚しく短縮せられ、費用もさまで多くを要せぬ計算であつた。

かくの如く、自動車の驚くべき發達は、結局地方道路改良の結果によるものであるが、昨年來特に其著しきを見たのは、言ふ迄もなく時局匡救事業實施の結果であると考ふべきである。

そこで問題となるのは、今後に於ける地方道路である。果してこの發達しつつある道路の維持を如何になすべきかである。兎に角開けるだけ道路は開いて見たが、さて其維持が困難だと言ふのでは、殆ど何の詮もない道理である。自分の小さい經驗では、慥に此弊

に陥らむとせるものが少くないやうに思ふ。道路は改修されたが、其修理が十分でないために、折角の道路も、其効用の半分を失はむとして居るものがないではない。

かう考へて見ると、道路は先づ以て開鑿の始に方りて、其維持に關する方針を定むることが緊要である。特に前にも言ふ如く、自動車の發達（特に貨物自動車の發達）は、至便ではあるがそれと同時に道路路面を損傷することも亦た決して少くない。従つて舊來の道路路面を以てしては、其修理は極めて頻繁でなくてはならぬ。少しく之れを怠れば、忽ちにして甚しく凹凸し、雨後の如きは泥田に等しき状態をも生ずるのが常である。

此に於て自分が提議したいのは其舗装である。道路に舗装の必要なことは元より當然であるが、實に我國に於て道路の舗装と云へば、これ迄は多く都會の道路に於て論議されたのである。

所謂地方道路に對しては、都會のそれに比して、甚しく懸隔があつたやうに思ふ。然るに今日に於ては決してさうでない。如何なる地方道路と雖も、既に貨物自動車を通ずる計畫である以上は、必ずやそれに適應すべき舗装が計畫されねばならぬと考へる。若し然らざれば道路の修理は、結局其繁に堪えざるのみならず、經濟的にも亦た必ず不利なるべきであると思ふ。

そのみならず、舊來の路面に於ては、衛生上に及ぼす影響も決して少な

いものではない。第一自動車の疾走によりて生ずる砂塵は、しばし紅塵萬丈の状を呈し、其不快は譬へ難いのみならず、沿道の人家などは、實に見じめなものである。

そこで自分は専門家に對して一つの懇願がある。それは我國情に適した舗装材料の選擇と、舗装方法の簡易化とである。多少なりとも、これで進歩すればするほど、其國家に益する處は大なりと言ふべきである。勿論、現今に於ては、其方法も少なからず進歩して居る、又た所謂地方道路にして、其實施されつつあるものもないではない。併し此點に關しては、猶ほ望蜀の切なるものがある。自分は今日の現狀に鑑み、或程度の道路以上には、必ず適當

の舗装をなすべく、相當の方針を定められむことを熱心に提議するものであ

政治界に異狀なし？

白洋漁夫

非常時内閣も人事行政や新政策の種盡きや赤字財政の悲觀や増税問題の停顿等の問題で其命數も盡き果てるではなからうか例令其處に陸軍首腦者達の掩護があるにもせよ餘程の轉換方法が見出されない限り所詮人力の及ばざる運命を辿るべく餘儀なくせらるゝであらうとは吾れ人の懸念する所であるが事容易にあらずと思ふてか中々妙策も賢謀も出ない有様であつた。が無

が時機未だ到來せず閣から閣へ葬られた、そこで内閣の運命もいよゝゝ時の問題となつて瀕死の状態を呈したと見られカンフル注射も葡萄酒もジンゲル液も食鹽水も起死回生に効はあるまいと思はれた。過日首相は鈴木政友會總裁と會見し國策確立の相談をした、何れ鈴木政友會總裁は黨の幹部の文珠智識に依つて具體案を作成して。之を首相に提示し協調を求むることとなるであらう。然るに一面准與黨を以て任ずる民政黨では首相が若し政友會と相計

る。(昭和八年八月十日稿)